

# 同志社国文学

第 66 号

- 『万葉集』 相聞歌の一位相…………… 駒 木 敏 ( 1 )  
——相手を「人」と呼ぶ歌の分布を通して——
- 『万葉集』における隔絶感の表現…………… 田 野 順 也 ( 15 )  
——中臣宅守歌の「山川を中にへなりて」をめぐる——
- 『小右記』長和四年十月の実資左大将転任回避の  
背景と記述…………… 滝 沢 優 子 ( 25 )
- 幸清撰『宇佐石清水宮以下縁起』について…………… 生 井 真理子 ( 37 )  
——幸清撰・口不足本『諸縁起』を補うもの——
- 『太平記』の蒙古襲来記事周辺からみる  
その対外意識の一端…………… 田 中 正 人 ( 49 )
- 近世における『源氏物語』の浸透…………… 小 島 由 子 ( 61 )  
——伊達紋・袷紗・櫛・簪の雛形本に注目して——
- 俳句の「写生」と日本の韻文の伝統…………… 青 木 亮 人 ( 71 )  
——正岡子規と現代俳句の句法について——
- 『法華百座聞書抄』の動詞の表記 (一) …………… 窪 田 恵理奈 ( 82 )
- 『宇治拾遺物語』説話の文章構造…………… 藤 井 俊 博 ( 91 )  
——話末評語を手がかりに——
- 翻刻『武烈天皇鏡』(下)…………… 翻 刻 の 会 ( 102 )

2007・3

同志社大学国文学会